スポーツ庁
JAPAN SPORTS AGENCY

令和7年度

地域スポーツクラブ活動体制整備事業

地域スポーツクラブ活動への移行に向けた実証事業

高知県南国市

自 治 体 名 ： 高知県南国市
担 当 課 名 ： 学校教育課
電 話 番 号 ： 088-865-8015

1.自治体の基本情報

スポーツ庁

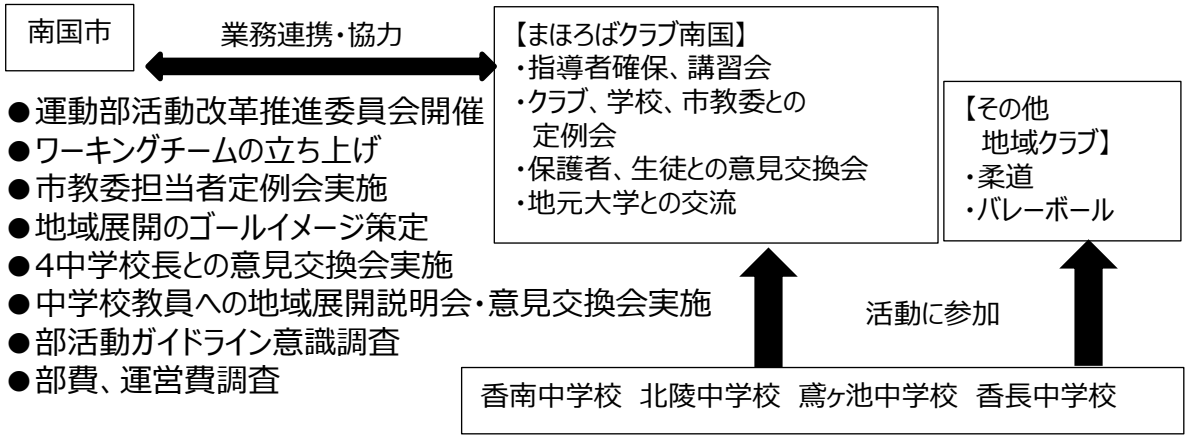
基本情報

面積	125.4㎢
人口	45,540人 （令和7年12月）
公立中学校数	4校
公立中学校生徒数	908人
部活動数 （運動部活動のみ）	31部活
地域クラブ活動数	5クラブ
市区町村の協議会・検討会議等の設置状況	設置済
市区町村の推進計画・ガイドライン等の策定状況	策定済

地域連携・地域展開における市区町村の現状・課題

令和7年度も教育委員会学校教育課（指導係長、指導主事、総括コーディネーター、コーディネーター）が中心となり地域展開に取組んだ。なかでも情報共有をより活発にするために定期的な担当者会を学校教育課長を交えて実施した。そのことで各々の現在地が把握でき、より円滑に取り組みが推進できた。また、令和8年度以降の地域展開を見据え、生涯学習課との会合を持ち、地域展開に向けての来年度予算や社会体育施設について協議した。これにより、学校教育課と生涯学習課の協力体制が深まった。さらに市長部局の理解と協力に向け、副市長を座長とした「ワーキングチーム」を立ち上げた。このように南国市においても、地域展開に向けての体制が整ってきた。一方で、指導者報酬のための財源確保、生徒の移動手段の確保、指導者の確保等、課題も残っている。

このような動きの中、夏休み期間中に市内4中学校の部活動顧問・副顧問を対象に、オンライン説明会・意見交換会を実施したことで、現場の課題を知るとともに地域展開に向けての理解が進み、兼職兼業を希望する教員を中心に地域クラブの新設に向けての動きが出てきた。そこで新たにサッカー部、女子バスケットボール部を地域クラブ化する目途が立ち、南国市としての今後の地域展開への大幅な道筋が整ってきた。今後は具体的に、活動場所や時間、予算の確保について検討・協議を重ねていく。さらに、令和6年度から引き続き地域クラブとして活動している５クラブは、クラブにより生徒確保等の課題は残るものの、昨年度から積み上げてきた丁寧な運営により、保護者や周囲の関係者の理解が進んできた。

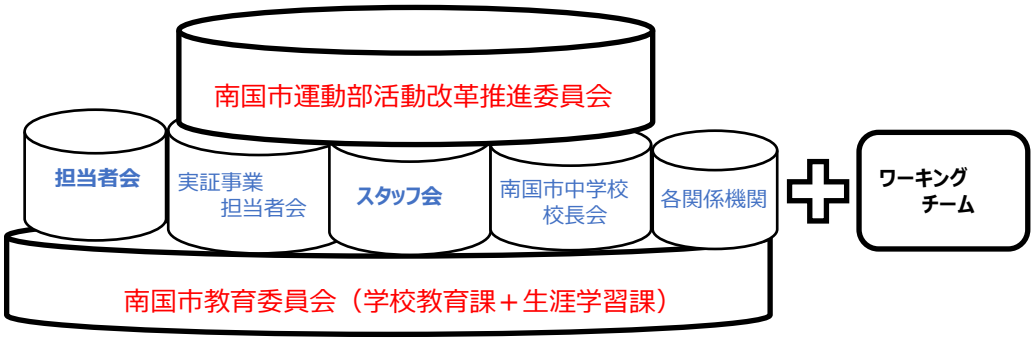


2.実証内容と成果

スポーツ庁

運営体制・役割

●市区町村における推進体制図



●行政組織内での役割分担

南国市運動部活動改革推進委員会

◉教育委員会（学校教育課）

- 部活動改革推進委員会開催
- まほろばクラブ南国との連携
- 学校並びに関係機関との連携
- 保護者市民への対応
- 県保健体育課、県・支部中体連、県スポーツ協会との連携

◉教育委員会（生涯学習課）

- 学校並びに社会体育施設等の管理運営

◉首長部局

- 財政的措置、ワーキングチーム開催

年間の事業スケジュール

4月	部活動総括コーディネーター　同コーディネーター配置
	改革推進実証校（香南・北陵）との協議
	担当者会　まほろばクラブ南国との協議
5月	担当者会　まほろばクラブ南国との協議
6月	第1回部活動改革推進委員会　中学校校長会
	担当者会　まほろばクラブ南国との協議
7月	担当者会　まほろばクラブ南国との協議
8月	第1回ワーキングチーム　スタッフ会　担当者会
9月	第2回ワーキングチーム　担当者会
10月	中学校校長会　担当者会
	まほろばクラブ南国との協議
	第2回部活動改革推進委員会
11月	第3回部活動改革推進委員会
	第3回ワーキングチーム
	南国市小中校長会　担当者会
	まほろばクラブ南国との協議
12月	担当者会　まほろばクラブ南国との協議
1月	第4回ワーキングチーム　中学校校長会
	担当者会　まほろばクラブ南国との協議
2月	担当者会　まほろばクラブ南国との協議
3月	第4回部活動改革推進委員会
	改革推進実証校（香南・北陵）との協議
	担当者会　まほろばクラブ南国との協議

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の運営実績

①全体に関すること

実施した地域クラブ活動総数		5クラブ	
ケース別地域クラブ活動数	A：部活動を地域移行した形の地域クラブ活動数（及び移行された部活動数）		3クラブ
	B：部活動にはない種目等、新規の地域クラブ活動数		2クラブ
全体の指導者数	7人	全体の運営スタッフ数	10人

②各地域クラブ活動に関すること（一部抜粋）

地域クラブ活動名	運営団体種別	種目	実施回数（平日・休日）	実施時間帯	参加者（学年別）	実施期間	指導者数	運営スタッフ数（他クラブと兼務）	会費	大会参加方法
まほろばクラブ南国	総合型地域スポーツクラブ	女子バレーボール	平日　4回 休日　1回	17:30～ 19:30	1年2名 2年4名 3年3名	通年	2人	2人 （兼務）	500円/月	中体連大会へ
		多種目体験型クラブ	平日　2回 休日　1回	16:00～ 18:00	1年7名 2年4名	通年	1人	1人 （兼務）	500円/月	なし

③その他、体験会やイベント等の開催実績

- まほろば南国女子バレーボールクラブ小学6年生対象体験会：7月31日実施
- まほろば南国多種目体験型クラブイベント（カヌー：8月21日実施、ダンス：月に1回程度、ティーボール：通年　等の様々な企画を実施）

2.実証内容と成果

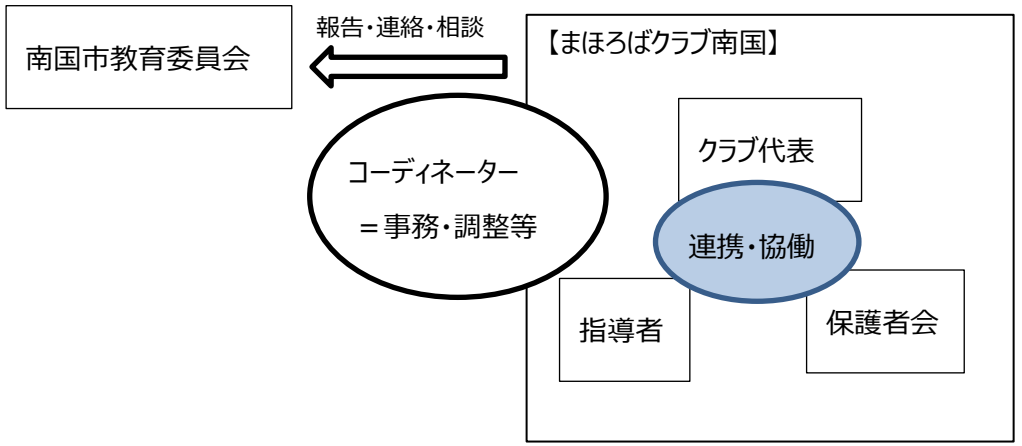
スポーツ庁

主な取組例

●まほろばクラブ南国　活動概要

地域クラブ活動で実施した種目	バレーボール 多種目体験型クラブ
運営団体名	特定非営利活動法人まほろばクラブ南国
期間と日数	バレーボール：5回/週 多種目体験型クラブ：2～3回/週
指導者の主な属性	教員（兼職兼業）、クラブ指導員
活動場所	南国市立香南中学校
主な移動手段	徒歩、自転車、保護者送迎
1人あたりの参加会費等（年額）	女子バレーボール、多種目：6,000円/年 男子バレーボール：27,600円/年
1人あたりの保険料	スポーツ安全保険 生徒1人あたり：800円/年 指導者1人あたり：1,850円/年

●地域クラブ活動を実施する際の運営体制図



●指導者や運営スタッフ等の役割分担等

●クラブ代表：クラブ全体の統括

●指導者：現場責任者（専門的指導、生徒指導、練習計画の立案、保護者対応）

●コーディネーター：生徒・クラブ・指導者・学校関係者・保護者の相談、意見調整
大会参加申込、保険対応、入退会等の事務手続き
学校体育館の使用状況を他の部活動と調整
講習会、体験会等の企画、事務手続き

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

取組事項

昨年度から引き続き地域クラブ活動を実施しているまほろば南国女子バレーボールクラブでは、昨年度の反省を踏まえて、クラブ・指導者・保護者が一体となって生徒を支える仕組みが構築できるよう取組んだ。

- 年度当初、新チーム立ち上げ時に保護者会の実施
  （指導者の考えを明確に共有できる時間をあらかじめ確保した）
- 男子やジュニアチームも同時に立ち上がったことから、指導者同士で悩み等を情報交換・共有できる環境つくりを行った。
- 昨年度の経験であらかじめ年度の流れを理解しており、時期が訪れる前に早期対応を実施した。（熱中症対策、防寒対策等）

取組の成果

昨年度と比較し、クラブ全体が円滑に機能した。年度途中で大きな困り事や不安・不満がなく進めることができた。特に保護者からの信頼度が向上し、クラブや指導者への負担が減った。

昨年度のチーム立ち上げ時から規約の作成、ユニフォームの作成、活動時間の整備、用具の整理等を行ってきた。この一連の取組により、今後地域展開を行う競技、団体でどのような準備が必要なのかが明らかになってきた。それは地域展開を望む指導者や部活動との個別の打ち合わせに生かされている。また、教育委員会や運営団体が決めること、現場の指導者に任せた方が良いことが徐々に明確になりつつある。

今後の取組における課題

取組を進める上で、以下の2点は大きな課題となっている。

① クラブ員の確保
生徒が行いたい種目ができる環境を目指して地域展開に取組んでいるが、まほろば南国女子バレーボールクラブでは、全校生徒数の少ない香南中学校と地域にバレーボール文化の少ない北陵中学校が移行した形でスタートしたため、所属生徒の人数が少なくなっている。

② 予算の確保
現在は500円の月会費で活動しているが、指導者への報償費を考えると月会費の値上げを検討する必要がある。保護者の理解協力を得ながら、指導者にも報酬が支払える環境を整備するため、予算の確保が課題となっている。

課題への対応方針

① クラブ員を確保し十分な人数で活動できるように、南国市全体で各競技ごとのチーム数の整備が必要だと考えた。香南中学校と北陵中学校で実証を行ったまほろば南国女子バレーボールクラブには、鳶ヶ池中学校も令和9年度よりチームに参入することを決めた。現在の部活動や顧問の意見も聞きながら進めていく。

② 庁内ワーキングチームを立ち上げ、南国市としての予算確保への理解を進め、指導者報酬を支払える方法の最善策を模索している。まほろばクラブ南国では、保護者会を開催し、会費の変更の可能性を説明している。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備

コーディネーターの具体的な動きの実績

〇総括コーディネーターとコーディネーター　（まほろばクラブへ出向）

- 運動部活動改革推進委員会の計画と実施
- 地域展開に向けてのまほろばクラブとの連携協力
  ※実証期間中のバレーボールクラブの運営　（事務 、経費 、引率 、広報 等）
- 地域展開に向けた地域クラブ設立への支援と県中体連への加盟手続き
- 改革推進実証校の地域展開への保護者会の実施
- 部活動指導員への活動支援と研修講習の実施
- 市スポーツ協会主催の指導者講習会開催への協力
- 指導者への指導者資格取得への援助
- 地域の指導者との意見交換
- 市内中学校運動部活動の視察による現状把握と顧問との意見交換 ・県保健体育課や県中体連との協議や懇談等

地域クラブ活動の運営効率化に向けた取組

専門的な指導はできるが事務業務までは負担が持てないという指導者が多いということで、コーディネーターが事務的な役割を担ってきたが、徐々にクラブ・コーディネーター・指導者の役割が明確になってきた。特に大会参加手続きや練習計画については、中体連主催の大会についてはコーディネーターが、その他の練習試合や招待試合は指導者が直接手続きを行うよう分担を行ったことで、円滑に事務作業が進んだ。参加生徒や保護者との連絡に関しては、グループ連絡や紙ベースを複合的に利用しており課題は残る。

運営団体・実施主体の安全性確保に向けた取組

今年度は運営団体を正式に位置付けてはいなかったが、令和8年度以降の取組に向けてまほろばクラブ南国を運営団体とするための体制整備を行った。

＜運営団体＞

- 今年度はまほろば南国女子バレーボールクラブ、多種目体験型クラブに加え男子バレーボールクラブの運営をまほろばクラブ南国の運営のもと行った。
- 研修、講習等が実施される際は、指導者・保護者へ向けて積極的に参加してもらえるよう促した。
- 総合型地域スポーツクラブ登録団体であり、ガバナンス等が守られており、部活動地域展開タイプの認証制度にも来年度申請する予定である。
- ＜実施主体＞
- 指導者が練習計画を発出する体制に変更し、練習計画の立案から現場の安全管理まで行える体制を整えた。
- コーディネーターが定期的な聞き取り、意見交換を実施している。

地域クラブ活動におけるトラブル・事故発生時の対応方針

昨年度より、事故や怪我が発生した場合は応急処置をするとともにクラブに連絡するようにしている。その際、不在者がいて対応が遅れてしまう場合や監督不在時の対応が課題となっていた。そこで、クラブ関係者（理事長、コーディネーター）、指導者（監督、コーチ）、保護者、マネージャーで組織される各クラブごとのグループ連絡網を作成し、緊急対応に加えて、後ほどグループで連絡を行うことを徹底した。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

取組事項

南国市では令和4年度より平日も含めた地域展開に取組んでいる。先を見通して平日休日の完全移行を推進していくことや生涯教育（学校教育と社会教育の両輪）と捉え取組んでいること等を確認して取組を進めている。そのため、平日休日の一貫した指導が行える環境はある。

また、指導者の質を保障するため、今年度も部活動指導員や地域クラブ指導者に対して以下の研修を用意した。

- 救命講習（教育委員会）
- 子どもの自死予防（教育委員会）
- ペップトーク（まほろばクラブ南国）
- 部活動地域展開事業　子どもの心と体を守るコーチング（まほろばクラブ南国）
- アクティブチャイルドプログラム（スポーツ協会）

今後の取組における課題

指導者研修を充実させる中で、指導者だけではなく関係する保護者や現状の学校部活動の顧問の教員にも参加してもらい、市内全体で子どもたちを見守る環境を作っていく必要がある。これまで、研修会や講習会の参加者は地域クラブ指導者や部活動指導員がメインであったが、ペップトークやコーチング等、実際の現場で必要になることも多い。そのため、受講するのが一部の指導者だけにならないように、関係者に研修会・講習会への参加の周知を図ることが課題である。

課題への対応方針

研修会・講習会の内容、周知の方法については、指導者の確保とともに検討・協議を重ねていく。

取組の成果

まず講習会・研修会を計画する段階で、教育委員会（学校教育課・生涯学習課）、まほろばクラブ南国、南国市スポーツ協会が連携し、幅広い分野について学ぶことができる環境が整っている。

昨年度、指導者の参加率が芳しくなかった点も踏まえて、昨年度に引き続き参加していない、事情により参加できない方はコーディネーターが個別に訪問する等対応を行った。開催時期についても検討したことで、ペップトークに関しては関係者の参加が増え年度当初に指導に関する共通の理解を図ることができた。



コーティング研修



ゲートキーパー養成研修

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　イ：指導者の質の保障・量の確保

多様な人材の発掘・配置に向けた取組

まほろば南国女子バレーボールクラブは今年度も高知工科大学女子バレーボール部との合同練習を行った。また、高知東高校女子バレーボール部との連携も行う等、高校や大学との協力のもと、単発ではあるが充実した環境下で活動を行っている。これを皮切りに、その他の競技種目でも大学との連携を図っていきたいと計画しているところである。

指導者人材バンクの設置はできていないが、既に指導していただいている方に指導者の紹介を依頼したり、クラブ内の繋がりで声をかけたりと今後の地域展開に向けて各競技・種目の指導者発掘を行っている。

指導者研修の内容（例）

研修名	部活動地域展開事業　子どもの心と体を守るコーチング
講師	杉田正明氏
研修内容	子どもの心と体を守るコーチング、そして子どもが自分から動くスポーツ指導とバーンアウトとケガを防ぐ秘訣。 子どもや大人、高齢者や障害者の参加・交流を推進する地域スポーツ活動の中に部活動を取組むウェルビーイングの実現、まちづくりの推進に向けて、子どもが自分から動くスポーツ指導バーンアウトとケガを防ぐ秘訣を学び、持続可能で多様なスポーツ環境を整備し、多様な体験機会を確保することを目的とする。

指導者研修受講者の声

実証事業に取組むまほろば南国女子バレーボールクラブ、多種目体験型クラブの指導者が参加した。また、今年度から立ち上がった男子バレーボールクラブの指導者も参加した。さらに、関係するスタッフや保護者の方々の参加もあった。

●参加者の声

参加者①

立場は教員兼指導者です。睡眠負債については新たな知見で学びになりました。睡眠が大切だと分かっていても実際にどのように伝えるのかは難しいためこのようなエビデンスがあると発言に自信が持てます。今後に向けて、常に新しい知識や情報は欲しいので、定期的にこのような講演会があるのはありがたいです。また、リアルに交流、情報交換の場になるのがよいです。

参加者②

オリンピック見ていたので、スライドショーがとても感動しました。身長の伸び方についてのところではすごく学びになりました。4月から身長が伸びている子どもたちが多いので、記録し、怪我のないように気にしていきたいと思いました。身長、体温チェック、睡眠の時間等についても、とても大切な時期なことも分かったので、子どもたちに聞き取りもしていき今後に役立てたいきたいと思いました。また中学生は、とても体格差があり、個人差があると言うこともわかったので、バーンアウトしないように、スポーツを続けていけるように、フォローしていきたいと思いました。今後さらに知りたいこととして、選手がやる気になるように声かけしていますが、なかなかやる気スイッチを入れるのが難しいので、どうしたら良いか知りたいです。ポジティブな声かけをしても、無理とかネガティブな落ち込みやすいときにはどうしたら良いか知りたいです。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ウ：関係団体・分野との連携強化

取組事項

① 部活動改革推進委員会の開催
② 改革推進実証校（香南・北陵）との協議
③ 中学校校長会での協議
④ まほろばクラブ南国との協議
⑤ 庁内ワーキングチームの立ち上げ
⑥ 担当者会・スタッフ会
⑦ 保護者・教職員向けの文書配布、広報への掲載

取組の成果

① 幅広い立場の委員からの声を集めることができた。
② 昨年度に引き続き両校の校長の協力的な体制を構築できたことで、新たな課題が生まれる中でも迅速に対応できた。
③ 部活動ガイドラインのアンケート調査の実施、教員からの意見の吸い上げ等、今後の地域展開に向けて必要な取組を行うことができた。
④ 常に情報共有を行うことで地域展開の実際の進捗状況を確認できた。来年度以降の運営団体の仕組み作りに関する話し合いも進められた。
⑤ 学校教育課内だけでなく、庁内で現状や課題の共有を図れた。
⑥ 学校教育課と生涯学習課の連携体制が深まった。
⑦ 市民、保護者、教職員に今後の方向性を提示することができた。

今後の取組における課題

現在、指導者は退職した教員、兼職兼業を希望する教員におおむね頼っている状況である。また、部活動指導員には大学院生に入ってもらっている部活動もある。今後、質の高い一般の指導者の確保は大きな課題になると考えられる。そのため、南国市スポーツ協会との連携をさらに深め、指導者の発掘から研修まで一貫して行うことのできる仕組みの構築が必要になる。

大学との連携に関しては、まほろばクラブ南国が昨年度より単発で高知工科大学バレーボール部との合同練習を行っている。大学生との定期的な取組や連携、指導者確保に向けた大学からの支援は検討・協議を進めていくことが課題となる。

課題への対応方針

指導者の確保に関しては、兼職兼業を希望する教員に地域クラブを立ち上げてもらい、そのサブ的なスタッフとして地域の方々や大学生の協力を求める形が考えられる。それと同時に、現在指導していただいている指導者からの紹介等、多様な募集方法を検討している。スポーツ協会との連携に関しても今後深めていき、スポーツ協会で各種競技を行っている地域の方々が指導するモデルを構築することも視野に入れておく必要がある。その点、部活動改革推進委員会のメンバーとして南国市スポーツ協会の会長には意見をいただいている。さらに、8月には三豊市視察に同行し、まさに連携を深めている最中である。今後も引き続き、指導者確保は課題となるが、継続的にアプローチしていきたい。

大学との連携では、高知工科大学の関係者のもとに総括コーディネーターが伺い相談する機会を持つことにしている。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　エ：面的・広域的な取組

取組事項

高知県西部に位置する四万十市教育委員会（生涯学習課）とは今年度互いの地域展開の進捗状況を情報交換することから繋がりができた。人口や学校数等、南国市と似通った状況であり、抱える課題や問題等共有できたと考える。

また高知工科大学の関係者とは「まほろばクラブ南国」が関係を築いていることから、現在は間接的な関わりではあるが今後は地域展開への具体的な助言や支援をいただきたいと考えている。

さらに、今年度8月末には香川県三豊市教育委員会を視察訪問し先進的な取組を学ぶことができた。



三豊市視察訪問

取組の成果

先進地を視察することで、南国市として必要な取り組みが分かるとともに、課題を共有する関係を築くことができた。なかでも、三豊市教育委員会視察では、「スポーツ振興事業団」の設置、地域展開を放課後改革と捉えた施策を行っていたことは大いに参考となった。また、全市的に地域展開に向けて取組んでいる様子を拝見し、南国市運動部活動改革推進委員会での協議、庁内ワーキングチームでの協議の参考になった。

今後の取組における課題

今後、地域展開を行ったクラブ数が増えることが想定される。その際、会費の管理や連絡方法等、現状ではスタッフ数が足りないという課題がある。その対応方法を考えていく必要がある。

課題への対応方針

指導者や選手、保護者への連絡をアプリで管理している自治体の事例も聞いている。それらの事例、今後新たな課題が出た際に、先進地やこれまでの関わりの中で相談をできるように今後もアンテナを張っておく。

2.実証内容と成果

ア：関係者との連絡調整・指導助言等の体制や運営団体・実施主体の整備
イ：指導者の質の保障・量の確保
ウ：関係団体・分野との連携強化
エ：面的・広域的な取組
オ：内容の充実
カ：参加費用負担の支援等
キ：学校施設の活用等
ク：その他の取組

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　オ：内容の充実

取組事項

まほろば南国女子バレーボールクラブでは、体験会や高校生、大学生との交流を積極的に実施し、地域展開を行ったクラブとしてのメリットを最大に生かし、地域資源の活用を行っている。年度当初には新入生歓迎会、関係者の交流会を図り、地域クラブとしての組織の盤石化も図っている。



体験会



新入生歓迎会

多種目体験型クラブでは、まほろばクラブ南国に通う小学生や高知大学地域協働学部まほろば実習班の皆さんとの活動も行った。







取組の成果

学校部活動では体験できない取組を行うことで、地域クラブ活動の良さを生徒や保護者が理解し、協力的な体制作りにつながっている。生徒の活動機会創出のために新たな活動を作り出すのではなく、既に活動している部活動との連携を図ることで、運営に過度な負担をかけない体制にしている。

多種目体験型クラブでは、昨年度の実績で様々な体験ができることを知り、新入生が多く加入した。大会出場を目指さないレクリエーション的な活動にも一定の生徒が興味を示していることがうかがえる。

今後の取組における課題

今年度行った内容を継続的に行っていくために、スタッフの体制や連携体制をさらに整備できるかが鍵となる。全ての活動を行うと、人的・予算的に難しいため、南国市内全体で取組、複数の地域クラブが一体となりイベントに参加できるよう周知していくことが考えられる。その際、指導者同士で意見の食い違いや摩擦が起きないよう、生徒の機会確保の視点を忘れないことは重要になる。

課題への対応方針

今年度の活動を引き続き行っていく。運営団体・実施主体の役割をさらに明確にし、さらに内容が充実するように日々試行錯誤を行う。

2.実証内容と成果

スポーツ庁

取組内容

●取組項目名　キ：学校施設の活用等

取組事項

今年度5つの地域クラブが学校施設（体育館等）で活動した。香南中学校では3クラブ（まほろば南国男子バレーボールクラブ・女子バレーボールクラブ・多種目体験型クラブ）、香長中学校では1クラブ（香長オールスターズ）、県立岡豊高校武道場では1クラブ（岡豊ジュニア柔道クラブ）である。クラブによって活動日数に違いがあるものの、大会出場や遠征を除き平日3日～4日、休日1日と活動したため学校施設としての利用は年間200日を超えることとなった。

取組の成果

各クラブとも学校部活動に準じて利用料金は免除であった。そのため、学校部活動のときと変わらず、体育館を利用することができた。

今後の取組における課題

利用料金は免除であったが、照明や空調を利用した場合や学校以外の社会体育施設を利用した場合有料になる等、運営経費に苦慮したクラブもあった。

また、体育館を利用する際の鍵の管理は課題として新たに上がった。利用する体育館に所属している生徒が学校の放課後の活動の延長で学校の鍵を利用して鍵を開けることがあり、鍵の管理体制に課題があることが分かった。指導者、クラブ関係者のみならず生徒や教員への周知徹底も不可欠となる。

さらに、施設の備品の確認、責任元の確認も今後の地域展開を見据えて必要になってくる。

課題への対応方針

① 実証事業を通して、地域クラブ活動の施設利用料金に関する規定を定めた。施設利用料は減免（無償）とすることにし、ネットや道具の貸出は可能とした。ただし持ち出しは禁止とすることを取り決めた。

② 現在、生涯学習課に提出している学校施設の開放の申込書に代表者のみでなく、鍵の管理者を記名することとなった。鍵の管理者を明確にし、受け渡し等のトラブルが起こらないよう対応する。

③ 学校施設の貸し出しに関しては、地域クラブへ何時から貸し出すことが可能なのか今後検討を重ねることにしている。現状では利用できる時間に学校ごとで時間が異なるため、4中学校で学校部活動、地域クラブ、社会体育がそれぞれ何時から利用することができるのかについて、来年度以降定めていくことにしている。

④ 令和8年度には、現在学校で管理されている備品を全て確認することにした。例を挙げると、バレーボールのネットの傷み具合（経年劣化等）の状況を確認することで、壊れてしまった場合の対応ができるようになると考える。地域クラブ活動が正式に始まる前に、使用する施設の備品リスト、状況を把握しておく。

2.実証内容と成果

取組内容

●取組項目名　ク：その他の取組

取組事項

年度当初は計画していなかったが、現場からの意見や現在の部活動の状況を踏まえて、下記3点を行った。

① オンライン説明会・意見交換会
② 教職員との意見交換
③ アンケート調査

また、南国市では令和4年度より部活動によっては休日に練習試合がある等、休日だけの移行では逆に取組にくいという場合もあるため、平日も含めた地域展開に取組んでいる。先を見通して平日休日の完全移行を推進していくことや生涯教育（学校教育と社会教育の両輪）と捉え取組んでいること等を確認して取組を進めている。今年度からは、令和6年度に置いていた「窓口教員」を置かずに取組んでいる。特別な生徒指導が必要な場合、適宜コーディネーターが学校との連携・情報共有を行っている。

取組の成果

① 平日休日に一貫した指導ができることの安心感が分かった。また平日も同時に移行を進めていく上で財源の確保が大きな課題であることが分かった。
① 兼職兼業で地域クラブの立ち上げを目指す教職員が現れた。
② 部活動はもちろん、地域展開を行った地域クラブにおいて危機管理体制を整備することの重要性が明らかになった。

今後の取組における課題

① 平日も同時に地域展開を進めることで、移動手段の確保は大きな課題となっている。市内4校の距離が離れていることもあり、自転車での移動が現実的ではない地域、安全面を考慮した移動手段の確保や移動への保護者の理解協力は必須である。また、サッカー部の地域展開の話し合いが行われた際には、ナイター設備のある学校とそうでない学校があるため、移動時間を確保した上で冬場の活動場所を考慮する必要性もあるという意見が上がった。

② 兼職兼業を希望する教員は学校での活動と地域クラブでの活動をさび分け、体育館の利用調整、鍵の管理を地域クラブ指導者として行うことが安全かつ平等な運営のために必要になる。また、心身に負荷がかかり、本来の業務に支障をきたすことのないよう留意して管理・監督することが大切になる。

③ 地域展開したクラブの危機管理マニュアルを作成する中で緊急時の連絡体制が課題として挙げられる。学校部活動では学校から保護者に連絡することが一般的であったが、地域クラブの場合、指導者が直接またはクラブ代表やコーディネーターが連絡するようになる。指導者が行った場合、緊急時は対応できるが保護者と個別に連絡をつなぐことになり以後のトラブルが心配である。クラブが対応する場合は対応に時間がかかる恐れがある。連絡網の在り方、危機管理体制については今後さらに検討を進めていく必要がある。

課題への対応方針

女子バレーボールクラブ、多種目体験型クラブの実証やその他の競技や学校の地域展開への動きを踏まえて、様々な課題が生じたが、今後もひとつひとつ丁寧に対応していきたい。

2.実証内容と成果①

スポーツ庁

総括・成果の評価・今後に向けて

●総括

南国市運動部活動改革推進委員会は今年度これまで3回実施し、情報共有や意見交換により地域展開が推進できた。また市内の中学校教員を対象にしたオンライン意見交換会では活発な質問や意見が寄せられ、地域展開に前向きな動きも見られた。この意見交換会を皮切りに関係者との具体的な打ち合わせを開催し、令和8年度には市内4中学校のサッカー部を統一チームとすること、香長中学校女子バスケットボール部、柔道部の地域展開を行うことが決まり、市民や教職員への周知を図った。

コーディネーターは実証事業で連携している総合型地域スポーツクラブ（まほろばクラブ南国）に出向し活動を支え、実証事業の現場の様子を鑑みながら、来年度以降の地域展開のゴールイメージの策定へとつなげた。また8月末には香川県三豊市教育委員会を視察訪問して先進的な取組を学び、運営体制の参考とした。

その他、指導者、保護者等を対象に「ハラスメントやいじめ対応」「救命講習」、「子どもの自死予防」、「ペップトーク」、「求められる指導者像」等の研修・講習会を今年度も実施し、地域展開に関わる人材の質の向上に努めた。

学校教育課が中心となり取組を行う中で、生涯学習課や庁内の連携も深まり、令和8年度以降に向けて、明るい兆しが見える1年になった。しかし、予算面や指導者確保等の課題は残っているため、今後も取組を進めていく。

●成果の評価

ワーキングチームの立ち上げにより、庁内の連携が深まったことが大きな成果である。特に予算面の検討が大きく進んだ。オンライン意見交換会を実施したことで、兼職兼業を希望する教員の存在が明らかになり、いくつかの競技で地域展開の目途が立ったことは大きな成果である。

その他、実証事業を参考に、運営団体と実施主体の仕組み作りに着手し、令和8年度から10年度の大まかな枠組みを設定できたことも成果として挙げられる。

●今後に向けて

予算の確保、指導者の確保等、引き続き細かな課題に対応していくとともに、進んでいくにつれて生まれてくる新たな課題へ丁寧に対応していく。

2.実証内容と成果②

スポーツ庁

アンケート結果・参加者/関係者の声

●アンケート結果

●今後地域クラブへ移行する際に兼職兼業が多数予想されることから、部活動顧問を対象に部活動ガイドライン意識調査を実施した。（設問項目　抜粋）

①できている　②どちらかといえばできている　③どちらかといえばできていない　④できていない
の4項目から選択。

1. **生徒の心身の健康、事故怪我防止を意識し指導している。**
   ①できている（86.4%）②どちらかといえばできている（13.6%）
2. **週あたり2日以上の休養日（平日は少なくとも1日、土日は少なくとも1日）を設けている。**
   ①できている（86.4%）②どちらかといえばできている（13.6%）
3. **1日の活動時間は平日では朝練習を含めて長くとも2時間程度、学校の休業日は3時間程度としている。**
   ①できている（86.4%）②どちらかといえばできている（13.6%）
4. **熱中症を予防するための対策を取っている。**
   ①できている（81.8%）②どちらかといえばできている（18.2%）
5. **体罰やハラスメントについて具体的事例から理解できている。**
   ①できている（90.9%）②どちらかといえばできている（9.2%）

南国市部活動ガイドラインは令和6年11月に改訂版を学校長を通じて各運動部活動顧問に周知を図った。来年度からの認定地域クラブ制度の導入に向けてこのガイドラインは今後の指導者には子どもを守るために不可欠なものになる。そこで現在学校部活動での遵守状況を調査し今後に生かすことにしたが結果は5項目について100%を達成できなかった。指導者の危機管理意識の徹底はさらに重要になってくると感じた。

●現状の部活動の部費の調査を行った。

- 部活動保護者会費（毎月の徴収額）：平均1,666.6円（最大5000円、最小500円）
- 会費の用途→大会参加費、遠征費、消耗品費、燃料費等

●参加者/関係者の声

●令和6年度より実証を行っているまほろば南国多種目体験型クラブの生徒に活動に関する聞き取りを行い、来年度以降どのような活動を行うのか、関係機関との新たな関わりの機会の創出について模索した。（一部意見を抜粋）

参加者①
小学生と一緒に活動したときは自分たちと違ってとても元気で活発だった。仲良くなれる子もいたしそうではない子もいた。自分たちで企画して楽しめる時間を作れたのもよかった。もっとフレンドリーに接していくことが目標である。

参加者②
ダンスとリズムジャンプの先生が来たときは、リズムに合わせて体を動かすのが難しかった。カヌーは初めて体験して楽しかった。これをできるのは多種目の魅力だと思う。これまでにやったことのない競技では、水泳をしたい。夏休みは暑くてあまり活動に参加できなかったから、水泳であれば暑くてもできるし、運動にもなると思った。

参加者③
大学生との活動では、多種目リレーを開発したり風船バレーをやったり、これまでに体験したことのない遊びのような活動ができて楽しかった。最後には色紙もくれて優しい大学生だった。1月で大学生との活動が終わってしまうことは悲しいけど、またどこかで会いたい。

2.実証内容と成果③

スポーツ庁

参考資料



【運動部活動改革推進委員会】



【ワーキングチーム】



【女子バレーボールクラブ　活動の様子】



【多種目体験型クラブ　活動の様子】

2.実証内容と成果

スポーツ庁

地域クラブ活動の実施に至るまでの合意形成プロセス

令和6年

実証事業開始
学校現場との調整

総合型地域スポーツクラブ（まほろばクラブ南国）との協議

令和7年

地域クラブ活動の体制完成

指導者の確保
利用施設の確定
予算確保

令和8年

改革実行期間開始
会則改定による施設利用
地域クラブの増設

●ステークホルダー
- まほろばクラブ南国での活動
- 運動部活動改革推進委員会での協議

●経過
- 令和5年度からの計画を具現化
- 実証校にて女子バレーボール部、女子バスケットボール部を総合型地域スポーツクラブへ移行
- 新たに多種目体験型クラブを創設
- 保護者との意見交換会実施
- 柔道、バレーボールの地域クラブ発足

●実施にあたって生じた課題
- 新たなユニフォームの作成、またユニフォーム費用に関する保護者の不安
- クラブ員不足で活動休止（女子バスケットボール）

●実施内容、工夫した点 等
- 丁寧な取組と話し合い

●ステークホルダー
- まほろばクラブ南国での活動
- 運動部活動改革推進委員会での協議
- 市役所庁内のワーキングチーム

●経過
- 施設利用、予算確保、指導者確保についての協議
- 現存する部活動（サッカー、バスケットボール等）に関する地域展開の方向性が決定

●実施にあたって生じた課題
- 各校、各部活動、保護者等にどのように共通理解を図り、理解・協力を得るか
- 地域クラブのクラブ員確保

●実施内容、工夫した点 等
- 保護者、教職員への文書配布や説明会の実施
- 市の広報による市民への周知
- 教職員との懇談やクラブ員確保への宣伝活動

●ステークホルダー
- まほろばクラブ南国での活動
- 運動部活動改革推進委員会での協議
- 市役所庁内のワーキングチーム

●予定
- 既存の地域クラブの新たな予算による運営
- サッカー、バスケットボール地域クラブ化
- 認定地域クラブ制度に準じた運営と運営団体の仕組み整理

●予想される課題
- 地域クラブの運営経費
- 保護者負担の増額
- 生徒の移動手段の確保
- 良質な指導者の確保

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

南国市部活動地域展開のロードマップ

年度		令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	令和11年度	令和12年度	令和13年度
		改革推進期間	改革実行期間（前期）国・中間検証			改革実行期間（後期）国		
中学校	香南	女バレ・多種目 移行 他(検討・移行　準備)	女バレ・多種目 完全移行 可能な部活 移行	可能な部活 移行	完全移行　完了 地域クラブ含む	ー	ー	平日・休日 移行（展開） 完了
	北陵	女バレ 移行 他（検討・移行　準備）	女バレ 完全移行 可能な部活 移行	可能な部活 移行	完全移行　完了 地域クラブ含む	ー	ー	
	鳶ヶ池	検討	検討・移行　準備	可能な部活 移行	完全移行　完了 地域クラブ含む	再計画に基づく	再計画に基づく	
	香長	検討	検討・移行　準備 可能な部活 移行	検討・移行　準備 可能な部活 移行	可能な部活 移行	再計画に基づく	再計画に基づく	少なくとも休日移行 （展開）完了
学校教育課		国実証事業	平日休日移行検討フェーズ ＆ 学教 ⇒ 生涯			完全移行までの学校支援		
生涯学習課		改革推進委員会				再計画に基づく		
		国実証事業	平日休日移行検討フェーズ ＆ 学教 ⇒ 生涯			社会体育事業としてのかかわり		
特定非営利活動法人 まほろばクラブ南国		国実証事業	連携協力団体としての位置づけ			地域展開の地域の中心的役割		
		男女バレー・多種目	他種目の受け皿への協議					
今後の動き		★庁内ワーキングチーム・専門家会議 立上げ ○学校及び保護者 にゴール提示	○各校種目別移行検討、受け皿の用意 財源確保の実現化、施設設備の使用料 等についての明確化、指導者確保（報償 含む）体制の確立 ○地域クラブの設置		○前期に関しての検証と再計画 ○地域クラブの支援	地域展開を総合型地域スポーツクラブ＆各地域クラブが担う体制の確立		地域スポーツクラブの自立

3.今後の方向性

スポーツ庁

地域連携・地域移行の推進に向けたロードマップ

南国市（生涯学習課）

委託

運営団体：NPO法人まほろばクラブ南国

【運営団体の業務】
①実施主体からの申請受付、統括・管理
②指導者研修会、地域スポーツイベントの企画・運営
③地域展開未実施の部活動への相談・支援

管理

申請

各実施主体：【認定地域クラブ】

【令和8年度見込】

まほろば南国男子バレー	香長オールスターズ	岡豊ジュニア柔道
まほろば南国女子バレー	香長バスケットボール	香長柔道
まほろば南国多種目体験型	南国サッカー	

〇クラブ費：3,000円（まほろばクラブ会費：300円込➡会員になる）
〇公的支援（補助金）を受け取れる。また大会申込、体験会の開催、指導者発掘等の支援を受けられる。
〇相談に応じて必要な用具を購入準備可能。また他のクラブと調整しながらバスの利用ができる。
※南国市部活動ガイドラインの遵守。